

全国学力・学習状況調査

市内の児童・生徒の調査結果を公表



全国学力・学習状況調査は、児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析して、教員の指導方法の研究・改善や市教育委員会の教育施策の改善・充実につなげることを目的としています。

今年4月に、市内の全小中学校が参加した全国学力・学習状況調査の結果について、概要をお知らせします。

なお、この調査結果は、児童・生徒が身につける学力の一部であることをご承知ください。

調査対象

対象者：小学6年生（24校）、中学3年生（11校）

内容：教科に関する調査（小学生／国語・算数、中学生／国語・数学）
生活習慣や学習習慣に関する調査

1 教科に関する調査

(1) 小学6年生 国語

現状と課題	○ 平均正答率 66.8% (全国値との比較 -0.9 ポイント) ○ 領域別では「読むこと」は全国値を上回りました。一方、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」は全国値を下回りましたが、全国値との差は、昨年度に比べ小さくなり改善がみられました。 ○ 「資料などを活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」などに課題が見られました。
今後に向けて	○ 目的を意識しながら、文章の要点を見つける力や、書かれている内容を関係づけながら、整理しまとめる力が身につくようにしたいと考えます。 ○ 授業の中に、話し合い活動や発表する活動場面をさらに設け、自分の考えを相手に伝える学習を位置づけるようにしたいと考えます。

(2) 小学6年生 算数

現状と課題	○ 平均正答率 61.4% (全国値との比較 -2.0 ポイント) ○ 領域別では「数と計算」、「図形」、「変化と関係」、「データの活用」の4領域全てで全国値を下回りました。 ○ 「除数が少数のわり算」や「円グラフの割合を読み取る」といった基礎的な問題の正答率は、全国値を上回りましたが、「計算の性質を活用して、求め方を式や言葉で記述する」ような思考・判断・表現に係る問題に課題が見られました。
今後に向けて	○ 複数の情報から、必要な数量を選択して立式するような問題を解く経験を積ませたいと考えます。 ○ 児童が互いに関わりあって、課題を解決する授業場面を増やすことで、見方や考え方の幅を広げながら、根拠をはっきりさせて判断し、表現する活動を大切にしたいと考えます。 ○ 問題を解く過程を大事に考え、なぜその立式になるのか、その演算でよい理由を問う学習を行うことが必要と考えます。



(3) 中学 3 年生 国語

現状と課題	○ 平均正答率は 55.6%（全国値との比較 -2.5 ポイント） ○ 「話すこと・聞くこと」、「読むこと」に関する問題の正答値は全国値を下回りました。特に、「状況や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめること」や、「文章の全体と部分との関係に注意して文の役割を捉えること」などに課題が見られました。 ○ 「書くこと」に関する問題の正答値は全国値を下回りましたが、「目的や意図に応じて材料を整理し、伝えたいことを明確にすること」に改善が見られました。
今後に向けて	○ 「国語の勉強は大切だと思う」、「国語の学習は将来社会に出たときに役に立つ」と考える割合が全国値を上回っています。この国語学習への関心・意欲を大切に国語力向上につなげたいと考えます。 ○ 「書く問題で最後まで書こうと努力した」生徒の割合が増加しています。自分の考えが伝わるように表現の効果を考えて文章を書く学習を積み重ねていきたいと考えます。

(4) 中学 3 年生 数学

現状と課題	○ 平均正答率は 49.1%（全国値との比較 -3.4 ポイント） ○ 領域別の「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」に関する問題の正答率は全国値を下回りました。特に、「筋道をたてて考え、証明すること」に課題が見られました。しかし、「関数」の正答率は、全国値比較でここ 3 年間年々向上してきています。 ○ 問題別集計結果から上田市の生徒は、「数と式」領域で、「思考・判断・表現」に係る問題形式が「記述式」の問題が不得意である傾向が見られました。
今後に向けて	○ 「実生活と関連付ける」、「観察や操作、実験等を通して数量や図形等の性質を見いだす」、「生徒に筋道を立てて説明させる」等の活動を授業に取り入れるとともに、定義や公式の理解、計算等の基礎的な学習事項を大切に扱いたいと考えます。 ○ 生徒一人ひとりのつまづきや実態を確実につかみ、日々の授業に生かすなど丁寧な指導を継続していきたいと考えます。



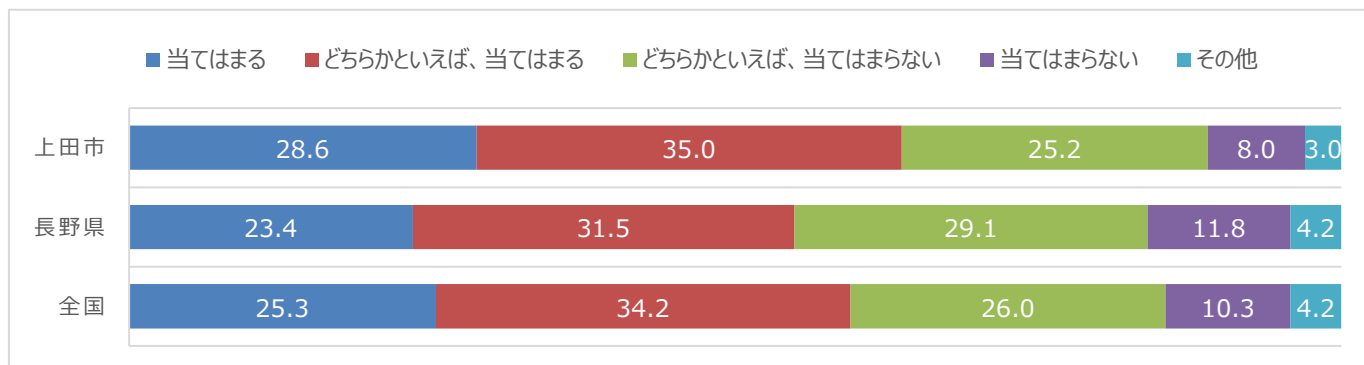
2 生活習慣や学習習慣に関する調査

小学 6 年生・中学 3 年生

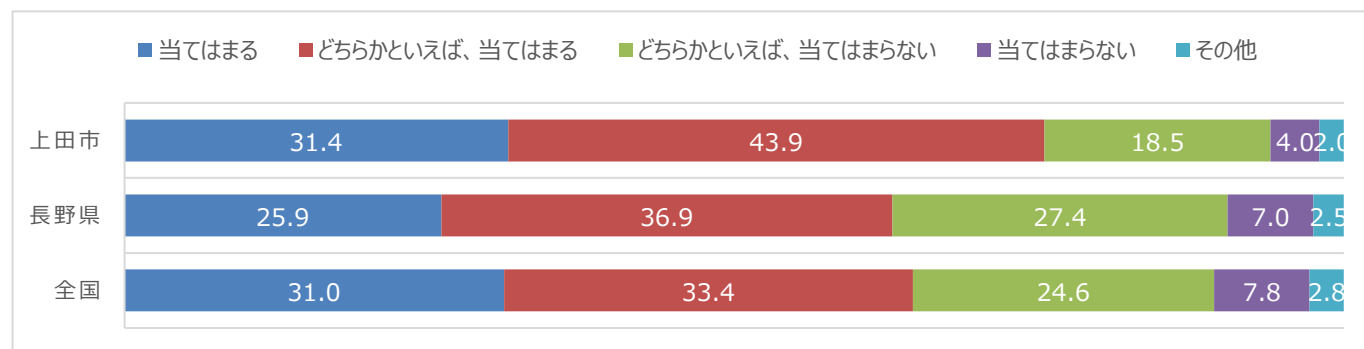
◆ PC・タブレットなどの ICT 機器の有効活用を目指して

現状と課題	「授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」について、「ほぼ毎日」「週 3 回以上」と回答した児童生徒の割合は、小学生が 63.6%（全国比 + 4.1 ポイント）、中学生が 75.3%（全国比 + 10.9 ポイント）となりました（グラフ①、②）。 なお、前年度から小学校で 7.5 ポイント、中学校で 3.3 ポイント増加しています。
今後に向けて	小学校、中学校ともに昨年度よりも利用率が上がっており日常的に ICT 機器が活用されています。 一人一台端末などの ICT 機器は、児童・生徒の興味・関心や個に応じた追究ができたり、友達と考えや意見を共有しながら学習ができたりする重要なツールです。 学校間や教員間の活用の差を解消し、個別最適な学びと協働的な学びをさらに充実させていきたいと考えます。

グラフ① 小学校 < 5 年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか >



グラフ② 中学校 < 1、2 年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか >

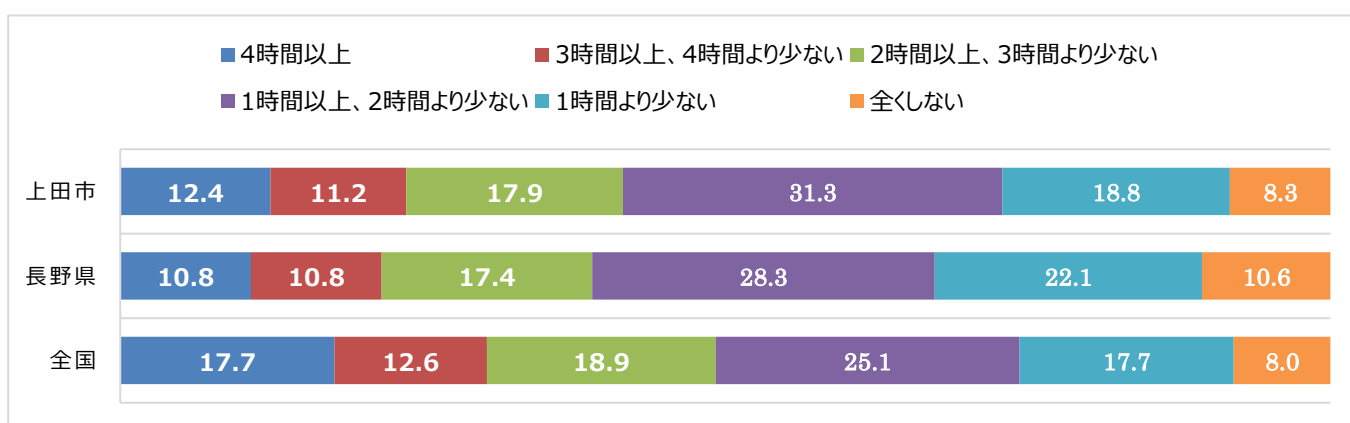


※ グラフの合計値は 100 にならない場合があります。

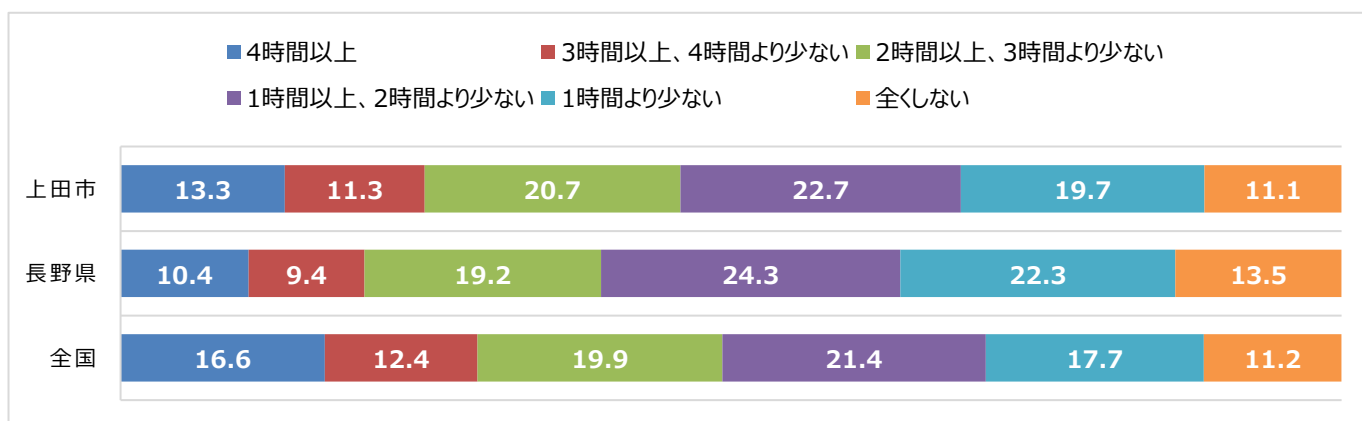
◆ テレビゲームの使用時間の適正を目指して

現状と課題	「1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」について、小学校、中学校ともに全国値と比べて「2時間以上」の割合が低いものの、県値と比べて高くなっています（グラフ③、④）。また、「4時間以上」の割合は年々増加の傾向にあります。
今後に向けて	テレビゲームを2時間以上する児童・生徒の割合が全国値と比べて低いことは良い傾向ですが、4時間以上の割合が、それぞれ12.4%、13.3%あること、またその割合が増加傾向（一昨年との比較：小学校＋1.9ポイント、中学校＋2.2ポイント）であることは課題です。今後も、メディアコントロールデーを設けたり、啓発リーフレットを作成したりするなど、家庭の協力を得ながらメディア機器の望ましい使用について取り組んでいきたいと考えます。

グラフ③ 小学校＜普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか＞



グラフ④ 中学校＜普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか＞



※ グラフの合計値は100にならない場合があります。

3 変化の大きな社会を生きる力を育むために

子どもたち一人ひとりに確かな学力の定着とさらなる向上が図られるよう、これからも、学校では子どもの興味や関心に合わせた教材を用意したり、体験学習の機会を設けたりすることなどによって様々な課題に主体的に取り組むことができるよう授業改善などに継続して取り組んでまいります。また、児童・生徒が、既存の発想にとらわれず、新しいアイデアを生み出す「創造性」、他者の意見も受け入れられる「対話力」「コミュニケーション能力」などの育成も大切です。

上田市教育委員会では、これらの調査結果を有効に活用し、児童・生徒がよりよい生活習慣や学習習慣を身につけることができるよう、家庭・学校・地域の連携をさらに深め、確かな学力の育成と将来の礎となる「生きる力」を育む施策を立案・実践してまいります。



上田市教育委員会 学校教育課

電話：0268-23-5101

FAX：0268-23-3745

Mail：gakukyo@city.ueda.nagano.jp